



わたしも
ひまわり

ごみの野焼き
もう少し
考えてほしい

郊外に住んでいるとごみの野焼きをする家庭が多く、ビニールのごみを燃やした悪臭に悩まされます。「枯れ草のついでに」という気持ちで燃やすのでしょつが、もう少し考えてほしいです。「紙なら有害ガスは出ない」と思い込んでいる人もいますが、紙にもビニールでコーティングした物があったり、インクなどが付着しています。決して、ただの「紙」ではないのです。

32・2055
問い合わせ先 環境生活課



朝、さわやかな空気を入れようと窓を開けても、漂う悪臭にガッカリ…。収まるまで窓を閉めて過ごすようになってしまいます。近所では直接言うのもなかなか難しいので、市で声掛けなどをしてもらえたらうれしいです。(西吉田・女性)
家庭ごみを自宅で燃やすことは法律で禁止されており、平成16年5月からは罰則も強化されています。
ごみを燃やすと煙が悪臭となり、物によってはダイオキシン類が発生するなど、近隣住民の迷惑になるとともに大気汚染にもつながります。
市では今後も、家庭ごみは決められたルールを守って処分していただくよう啓発に努めていきますので、ご協力よろしくお願ひします。

わたしのおすすめ

聴くと歌いたくなる演奏会



津山第九をうたう会副会長
宮野良治さん(弥生町)
昭和58年から続いている津山第九演奏会は歌の好きな人たちが集う市民手作りの演奏会です。地方から音楽を興そうと、当時津山にあった作陽

音大に赴任された渡邊暁雄先生(故人)の声掛けによって始まり、今年で25回目となります。市民手作りの第九の演奏会を毎年これだけ長い間続けているのは全国的にも大変珍しいことです。
ベートーヴェンの交響曲第九番は平和への願いや人類愛、人間の善なる心などが込められた音楽の魅力にあふれる曲です。これを聴いた人は自分も歌ってみたいと感じるようで、毎年新しい人が参加しています。今年は高校生から70歳代までの約100人で、現在一生懸命練習に励んでいるとこ

ろです。
25回目の記念として、今年の演奏会は中央で活躍中のソリストをお迎えし、いつもより豪華になる予定です。私は毎年参加していますが、毎回音の美しさや雄大さなど曲の表現が深まり、大変勉強になります。今年はどんな風に仕上がるかとても楽しみです。クリスマスの雰囲気が高まる12月。ぜひ、ご家族や大切な人と一緒に聴きにきてください。

第25回記念 津山第九演奏会

とき 12月2日(日) 午後2時～
ところ 津山文化センター
入場料 一般 2,000円、学生 1,000円(当日1割増)
演奏曲目 ベートーヴェン作曲交響曲第9番ニ短調(合唱付き)、ヴェルディ作曲 歌劇「ナブッコ」より“行け、我が思いよ黄金の翼に乗って”
問い合わせ先 津山第九をうたう会 ☎24-0201



未来をひびかる 津山人

郷土の言葉の大切さを伝えたい

岡山の大人のための
地域生活情報誌「オセラ」編集長

青山 融さん



昨年から今年にかけて岡山県内各地においてロケが行われた映画『バッテリー』と『釣りバカ日誌18』。今回はこの両方の映画で方言指導をされた津山市出身の青山融さんを紹介いたします。

方言指導はどのようにするのですか？

まず、助監督から渡された台本を岡山弁に直します。それから助監督の指示により、カセットテープにせりふを吹き込んでいきました。『バッテリー』は中学生が主役の映画ですから、娘に協力してもらって2人で録音

しました。一方『釣りバカ日誌18』は岡山の劇団の人に感情を込めて読み上げてもらいました。せりふの録音だけみても監督によって考え方が違うんだなとおもしろく感じましたね。

監督からは、岡山弁がきつすぎる何を言っているのか分からないので、全国の観客にも意味が分かるようにゆるい岡山弁にするようにと言われました。
岡山弁の大きな特徴に「二重母音の長音化」というのがあって、アイ・エイ・オイ・アエ・オエという二重母音はすべてエーと発音し、ウイという二重母音だけはイーと発音します。例えば、太い↓ふてー、帰る↓ける、暑い↓あちー、とかね。これをすると岡山弁らしくなりますが、やりすぎるときつくなります。分かりますくなるんですね。

撮影現場では、実際に俳優が演技しているせりふを聴いて、



▲「釣りバカ日誌18」撮影現場にて

よく遊びました。丹後山から見る那岐山がきれいですね。小さい頃、本気で富士山だと思っていましたよ。それぐらい素敵でした。
これからやってみたいことは？
岡山弁に関する記事の連載を続けていきたいですね。ラジオやイベントなど色々な活動をしていきたい。岡山弁のおもしろさを伝えたい。方言が減ることはありませんが、単語など消えていっている言葉があります。使わないうと衰えてしまいますからね。大事な郷土の言葉です。その大切さを皆さんに伝えていきたいです。

イントネーションやアクセントをチェックしました。関西風な言葉を東京式アクセントで言うのと岡山弁らしくなるのですが、なかなか難しいようです。例えば「長くて」は、東京は「ながくて」関西は「なごーて」岡山は「なごーて」とかね。
岡山弁に興味を持ったきっかけは？
学生時代、東京で寮生活をしていたのですが、色んな地方から来た寮生が話す言葉がおもしろくて、その頃から漠然と考えていたんだと思います。
また、父の仕事は転勤が多く、私は津山に幼稚園までいて、小学校入学と同時に岡山市に引っ越しました。その時、子ども心にも「岡山と言葉はきついな。なんて津山は上品でまったりした言葉だったんだろう」と思いました。津山の言葉は雅な感じがありますね。その後も県内を何カ所か移りましたが、行く土地土地で言葉は違っていて、その度に発見がありました。方言に興味を持ち始めた原点はここにあるのかもしれない。

津山の思い出は？
上之町に住んでいたのですが、大隅神社や八出河原、丹後山で